

## かお・人・interview

2024年7月17日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局  
筑後川河川事務所 所長

## 塚原隆夫氏

TSUKAHARA Takao

気候変動に伴う水害リスクは年々増加している。筑後川河川事務所が所管する筑後川・矢部川も例外ではない。防災対策を強化するために、新たな技術の導入や災害時の迅速な情報共有などハードやソフトの対策に力を入れている。ただ、流域治水は河川管理者だけでは成り立たず実施するためには建設業界、自治体、近隣地域の皆様など流域全体の連携が重要になってくる。地域の安全確保に向けた取り組みや課題について塚原所長に話を伺う。

## Q 所長就任にあたっての抱負

流域の発展と文化の継承、そして皆様の安心・安全——これらを実現するために、治水対策の強化が重要です。近年、激甚化する気候変動を踏まえ、新たな事業「流域治水プロジェクト2.0」を令和6年3月に策定しました。従来の河川管理の枠を超え、新たなアプローチで治水対策に臨む必要があります。

地域特有のリスクを軽減する治水対策はひとつではありません。例えば、ハード対策としては、調整池や水田の機能を活かすことが挙げられます。治水目的で調整池や水田を利用することで、大雨時に水をため、排水を調整します。これにより、地域の水害リスクを軽減する効果が期待されます。また、ソフト対策としては、下流に住む皆様のリスクは高まりますので、高台への早期避難を奨励するなど、対策を促します。私たちの目標は、地域の安全を守りながら持続可能な発展を促進することです。



▲小石原川導流堤

## Q 赴任先での思い出

赴任先の思い出というより、培った経験が考え方に影響していると思います。それは、一つの視点にとらわれず、広い視野で物事を考えることの重要性です。特に治水の仕事では、地域の状況や社会的な背景、自然環境を含めた総合的な視点が不可欠です。ところが、実務に入ると、無意識に特定の視点に偏りがちです。これらの経験を通じて総合的な考え方を常に心がけるようになりました。



## Q事務所の紹介(事業内容、組織、特徴)

福岡県、佐賀県、大分県および熊本県の一級河川のうち筑後川、矢部川の整備・管理を担当しています。12の課と6つの出張所があります。特徴のひとつとして流域治水の取り組みの見える化を目的に、横断的な組織として流域治水企画室を令和3年度に設置しました。所属する枠組みを超え、柔軟に対応できる環境を整えています。

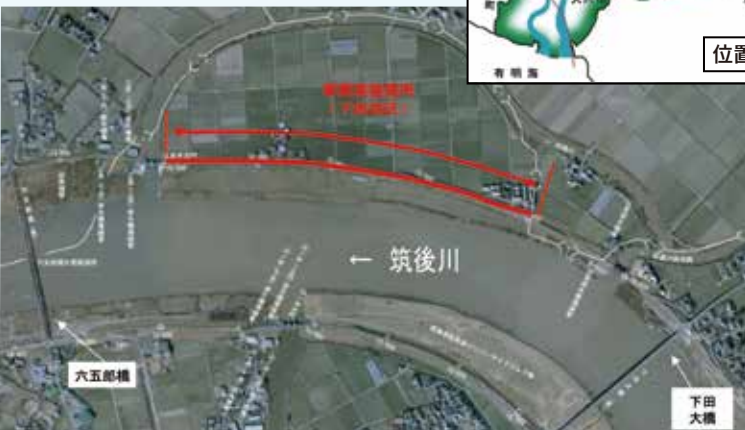
## Q今年度の事業概要

令和5年7月の豪雨により筑後川水系巨瀬川で甚大な浸水被害が発生したことを踏まえて採択された巨瀬川緊急治水対策事業(緊急対策特定区間)による河道掘削や堤防整備などを引き続き進め、被害の軽減に向けた治水対策を推進します。

筑後川水系巨瀬川は、川幅が狭く堤防も低いいため水害に対する安全度が低く、平成19年7月、平成24年7月、平成30年7月、令和5年7月洪水と、近年は浸水被害が頻発しています。特に、令和5年7月の洪水



位置図



▲筑後川下流部洪水対策

では、越水により甚大な浸水被害が発生しました。このため、洪水を安全に流下させるための堤防整備や河道掘削等を実施しています。令和6年度は、堤防整備、橋梁架替、樋管改築、用地補償を進めています。



▲河道掘削(巨瀬川)



▲河道掘削(巨瀬川)

また、久留米市街部の洪水対策として、久留米市瀬ノ下・北野地区の河川改修を促進します。筑後川中流部にある久留米市街部は、昭和28年6月の洪水により



整備前



▲樋管整備(整備前)



▲樋管整備(説明)



整備後

▲樋管整備(整備後)

甚大な被害が発生し、その後堤防整備を進めていますが、依然として堤防幅および堤防断面が不足している区間が残っています。筑後川本川において、決壊等による氾濫が発生した場合、地域社会に与える影響は甚大なものとなるため、洪水を安全に流下させるための堤防拡幅等の整備を継続しています。令和6年度は、堤防整備、樋管改築を実施します。



▲筑後川百年史パンフレット

流域の人々、文化、経済はつながっており、治水面においても上中下流の連携が必要であることが再認識したところです。

流域治水の取り組みについて、筑後川河川事務所は令和3年度に設置した流域治水企画室を中心に、流域全体の関係者の連携を図りつつ、流域治水の旗振り役、牽引役を果たしていきます。また、毎年10月第4日曜日に、筑後川、矢部川流域全体で地域住民と一緒に川を美しくするために一斉清掃活動を行っています。河川協力団体とともに維持管理、環境保全、川の知識の普及・啓発活動に努めています。



▲R5年第1回流域治水企画会議

さらに、水辺の賑わいを取り戻し、同時に地域活性化を図るため、地元の方々が水辺で散歩や休憩を楽しむ景観の良い護岸の整備等を実施しています。例えば、筑後川流域の(久留米市)合川宮ノ陣地区ではクリスマスイベント、(うきは市)大石地区ではパークゴルフ・凧揚

げ大会・駅伝大会・カヌー体験、矢部川流域の(筑後市、みやま市)船小屋地区では夏の川遊び・マルシェが行われています。



▲矢部川流域イベント 船小屋社会実験

## Q地域建設業への要望・メッセージ

地域の守り手でもある建設産業の中長期的な担い手確保・育成に向け、発注者としても建設業の皆様の働き方改革を加速させることは急務と認識しています。

例えば、建設業の皆様が実施している統一閉所日について筑後川河川事務所としても留意していきます。この取り組みを確実に実施していただき、業界のさらなる働き方改革を発注者としても推進したいと思います。

## Q趣味について

特別な趣味はありませんが、あえて言うならば食べ歩きです。食べ歩きは地域の文化や風土を感じることができるのが魅力です。

九州の麺文化ではラーメンが有名ですが、うどんも特徴的で、柔らかくもちもちした食感で、口に入れると優しいダシの香りが広がります。特に、「ごぼ天うどん」は、揚げたごぼうを添えた料理で、ダシとの相性が抜群です。ごぼうの食感と天ぷらの香ばしい味が魅力的です。

### プロフィール



R6年 4月 現職

千葉県出身、S44年生まれ。

H7年 4月 建設省採用

H30年7月 国土交通省水管理・国土保全局水資源部  
水資源計画課 総合水資源管理戦略室長

H31年4月 さいたま市都市戦略本部  
未来都市推進部長

R4年 7月 独立行政法人水資源機構関西・  
吉野川支社長